

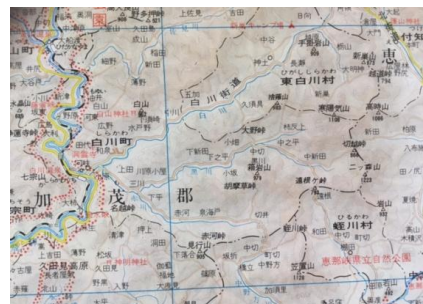
告白～満蒙開拓団の女たち

写真は2017年8月5日放送NHK「ETV特集」。まずは番組案内から一終戦後の旧満州。命を守るため、ソ連兵の接待を若い女性にさせた開拓団があった。戦後長く語られなかった、開拓団の女性たちの告白。その歴史に向き合う人々を見つめる。戦前、岐阜県の山間地から、旧満州(中国東北部)・陶頼昭に入植した650人の黒川開拓団。終戦直後、現地の住民からの襲撃に遭い、集団自決寸前まで追い込まれた。その時、開拓団が頼ったのは、侵攻してきたソビエト兵。彼らに護衛してもらったかわりに、15人の未婚女性がソ連兵らを接待した。戦後70年が過ぎ、打ち明けることがためらわれてきた事実を公表した当事者たち。その重い事実を残された人々はどう受け止めるのか。



この番組を見て、あらためて戦争の恐ろしさ、人間の尊厳について考えさせられた。これまでタブー視されてきた事実が、数年前に一人の女性により告白され、満蒙開拓団の女たちの苦悩が明らかにされる。うまく表現できないが、戦後76年の今もこうした悲惨な歴史から学ぶことは多い。

『岐阜県史 通史編 続・現代』2003年によると、終戦までに岐阜県が送り出した満州開拓民と義勇隊の総数は1万2308名(県別送り出し数では全国7位)で、うち開拓団員9629名であった。戦後の調査によると、岐阜県出身の開拓団員9629名のうち、死亡者は3589名(37%)、未帰還者は357名(4%)、引揚げ者は5683名(59%)であった。岐阜県に帰郷した旧満州移民の多くは、県内に90か所近くに設けられた開拓地へと再入植し、生活再建に向けて、再び困難な歩みを続けた。「黒川開拓団」は岐阜県黒川村から旧満州・吉林省、陶頼昭に入植した。岐阜県送出開拓団一覧表によると、在籍人員は661名、死亡人員202名、未帰還人員1名、引揚人員458名とある。当時、黒川村は現在の岐阜県白川町に位置する。『日本分県地図地名総覧』1992を見ると、白川町には「黒川」という地区がある。黒川という川沿い、箱岩山の近くだ。



この白川町には思い出がある。国鉄高山線「下油井」駅の官舎で過ごしたことがあるからだ。当時、信州大学に入学して、夏休みなどに帰省したときの思い出であったが、黒川村のことは、番組ではじめて知った。白川町のことで忘れられないのは、1968年8月18日未明の飛騨川バス転落事故である。大学2年の夏休みに帰省していた深夜の重大事故であった。飛騨川というと、いつも思い出す。

(2021年8月16日)